

AMAKURU RWANDA

Gashyantare #10



青年海外協力隊 2017 年度 4 次隊
ルワンダ派遣 (2018/3~)
コミュニティ開発 (水の防衛隊)
野田 恵莉



Mwiriwe! (こんにちは!) 2018年3月末より東アフリカの赤道直下に位置するルワンダ共和国に派遣されている野田恵莉(のだえり)です。

年明けから雨の降る量がとても少なく、近くの公共水栓はほぼ閉鎖。そのため、一時期100RWF/20Lだった生活用水は、250RWF/20Lに跳ね上がっています。この場合、水容器 20L×4 = 牛肉 0.5kg も買える値段! 水の運び屋は儲かる一方、大家族の生活は厳しいものです。

さて今月は、私の活動と暮らしについて紹介します。

----- 配属先と、井戸維持管理の作戦会議。 -----

新年が始まり、すでに3か所も井戸修理にでかれています。そして住民へ修理に必要なお金を集めるように継続的に呼び掛けています。新システム案を整備させたいと切に願いながら。

さて、今回は、同じ郡の隊員のカウンターパートである郡庁の水担当と、私のカウンターパートであるセクターの水担当に向けて、持続的な井戸維持管理のための新システムを提案し、意見交換をしました! (※郡庁はセクターの上位機関)

ルワンダ政府の「The Vision 2020」によると、2020年までに**安全な水を100%の人々に届ける**と施策を掲げています。水の供給や衛生は人々の健康や福祉、そして国の発展に強く結びつくこと認識されているのです。郡庁は、パイプ給水(水道)事業に力を入れている一方、これまで**村に住む人々が使用する井戸の優先順位はかなり低い印象**でした。しかし、今回の意見交換を通じて、**住民の暮らしには井戸が不可欠なことについて、郡庁のカウンターパートは予想以上に理解を示してくれました。**

一方、セクターの水担当と現場に行くことはなかなか叶いませんが、マメに情報共有をしているため現状と課題、提案をよく理解してくれ、有意義な意見交換ができました。

水委員会を再整備し、セクターレベルで口座開設をし、**お金が回るしくみをつくる**ことで、部品の購入やテクニシャン、労働者への報酬を実現します。この流れをつくるためにはまず「口座開設」と「組織づくり」、「集金」が必要。しくみを確立するまでには時間はかかりますが、郡庁とセクター、そして隊員が力を合わせて村の住民へ投げかけを行い、意識を少しずつ変えていきたいと思えます。

今回、車座でそれぞれの認識を確認し、次に進む合意が取れたことは大きな進歩でした!



📷: カウンターパートと青空の下、作戦会議。

----- WhatsApp レポート、はじめました。 -----

任地に来て驚いたことといえば、**行政職員が「WhatsApp」というSNSを使って、常に現場情報など写真付きでレポートをしていること!**

(任地の職員は皆スマートフォンを持っています) これは、日本人がよく使用している「LINE」と同じようなアプリケーションです。1日に50~

100件は投稿されています。

赴任後、エグゼクティブ（配属先のトップ）にグループに招待してもらったものの、キニアルワンダ語のレポートが飛び交うグループ…発言は控えていました。私はこれまで紙上のレポートを出し続けていましたが、配属先の人に悔しいくらい見てもらえない！新鮮な情報が届かない！だからいつもサインだけもらうようなものです。（行政として文書に残すことは大切ですが）

そこで、職員に倣って（いまだに英語）現場に行った後、必ず「今日のフィールドレポート」を写真付きで投稿するようになりました。井戸修理の後、住民集会の後、衛生啓発ワークショップの後…。すると「いいね👍」「今度見に行くよ」など、職場全体から反響が！少しずつ私の活動が認識されるようになりました。これからも、こつこつ続けていきます！

----- ビソケ山、登山にチャレンジ！その2 -----

さて、ビソケ登山レポート 12月号の続編です。山の中腹にあるジャングルに突入してからは、いつゴリラに遭遇するか、ワクワクしながら道なき道を進みました。しかし、登っても、登っても出遭うのは、ゴリラのフンとバッファローの足跡と巨大ミミズだけ。結局、レンジャーのスマートフォンに写るゴリラ動画鑑賞で我慢となりました。



📷：左 | 泥まみれの重い靴。登山靴は必須。

右 | とげが刺さった痛みがずっと引く、魔法の植物。

先の見えない苦しさも忘れ、同期隊員やレンジャーと気合を入れたり、わいわいおしゃべりしながら進み続けること約3時間…。ついに、登頂！！



📷：隊員6名、全員登頂！みな余裕の表情。



📷：山頂には火山噴火によってできた湖が。

向こう岸はコンゴ民主共和国です。

山頂の天気はご機嫌斜めでしたが、わずかな休憩時間で、ランチを楽しみました。着いたと思えばすぐ下山。滑って転びながら登った山を下りるのはなかなか大変です。予想以上に片膝に負担がかかったらしく、途中から一人では歩けなくなり…レンジャーに手を引かれて帰ることになりました。最後まで付き添ってくれたレンジャーには感謝、感謝です。

今回、「また登山に挑戦したい」と思えるくらい気持ちよく、楽しい経験ができたビソケ山！ルワンダにいらした際には、ぜひチャレンジしてみてくださいね。

来月もお楽しみに。

Murabehe~! またね!

